

第26期第3回横浜市児童福祉審議会 会議録	
日 時	平成20年3月25日(火) 10時から正午まで
開催場所	松村ビル別館201会議室
出席委員	齋藤委員、加藤委員、小松崎委員、伊達委員、辻委員、生川委員、増田委員、鈴木委員、山本委員、米田委員、小塚委員、松原委員、山崎委員、菅野委員
欠席委員	新納委員、小玉委員、四方委員、深野委員、徳増委員、安西委員
開催形態	公開(傍聴者1人・報道0人)
議 題	<p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各部会の活動報告 2 児童部会下部組織の新設について 3 地域子育て支援拠点設置の進捗状況について 4 平成20年度予算概要について <p>【審議事項】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 こどもの遊ぶ声をめぐる問題について
決定事項	なし
議 事	<p>【報告】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 各部会の活動報告について 各部会の審議内容について報告される。 (意見・質問なし) 2 児童部会下部組織の新設について 児童部会部会長より「子ども虐待による死亡事例等の検証委員会」「児童相談所一時保護所外部評価委員会」が下部組織として新たに設置されることが報告される。 (意見・質問なし) 3 地域子育て支援拠点設置の進捗状況について 事務局より、地域子育て支援拠点の設置状況について報告。 (増田委員) ぜひ検討してほしいのは人材育成。専門性を有する人だけでは難しい。どういう人が適切な のか、今後検討していただきたい。 途中退席するので、保育部会について、ここで発言したい。 27日に保育指針の改定の告示が出される。また、障害児の支援については、保育所でも個 別の支援計画を作成することや、新たに、保育所児童保育要録という形で小学校へ資料を送 付するという動きもある。行政と関連のあることなので、来年度、保育部会でも検討してい きたい。 (鈴木委員) 親と子のつどいの広場については、今後どのように増えていくのか。 中区の拠点は、いわゆる雑居ビルなので、火災が起きた場合等の危険性が大きいのではな いか。安全な場所へ移すことはできないのか。 広場の数が増えないのは、予算が少ないせいなのか。 (事務局) つどいの広場について、今年度末までで19か所。来年度は6か所増やす予定で全部で 25か所になる。中期計画の中では36か所まで増やすことになっている。 中区の拠点については、駅に近くて利用しやすいという利便性との兼ね合いも含め、区 と検討していく必要はあると思う。

予算については規模に合わせて組んでいて、来年度は少し増額するつもりでいる。
場所がない、人材がないという部分で増えないのが現状。支援拠点等で人材育成をしながら、つどいの広場を開設する環境づくりをしていきたい。

(鈴木委員)

区と拠点を立ち上げる際には、運営法人と場所とどちらが先に決まるのか。
運営法人は、どうやって決めるのか。

(事務局)

原則的には、運営法人を決めて、運営法人が場所を見つけてくる。
運営法人は、広報等で公募し、区で選考委員会を立ち上げて選考する。書類審査とプレゼンテーションで高得点の法人が選ばれる。

4 平成20年度予算概要について

事務局より、こども青少年局の平成20年度予算概要について報告。

(松原委員)

「こんにちは赤ちゃん事業」の担い手である「地域の方々」というのは、実際にはどうい
う人なのか。事前説明のようなものは行うのか。

(事務局)

主任児童委員をはじめ、子育て支援者、子育て支援団体等に委嘱する。
訪問するにあたっては、乳児の特性、母親の心理等の研修を予定している。

(菅野委員)

不登校・ひきこもりにある青少年の中には、かなりの割合で軽度発達障害のお子さんがい
ると思うが、そういう方々を外に連れ出すのは難しい。自立塾を作ったとしても通うのは難
しい。入所のようなことも考えているのか。

(事務局)

3日から5日程度の短期のキャンプのようなものも考えている。
ひきこもりの方については、青少年相談センターで訪問をしながら徐々に外へ出るような
支援をしている。

(米田委員)

障害児の居場所について、学齢後期になったときにはサポートが薄くなるように思うが、
どのような支援体制があるのか

(事務局)

障害児居場所づくり事業は、学齢後期についても含んでおり、高校生ぐらいまでは対象と
している。

(米田委員)

一箇所13人以上で大規模というのは、人数が少ないように思えるが

(事務局)

従来は中規模までだったが、10人を越えたところがいくつかあったので、大規模というの
を新たに設置した。

人数が増えた場合、規模を拡大するのでは、スタッフや場所の確保が難しくなるので、
場所を増やしていくことを考えている。

(山崎委員)

待機児童は解消されたのか。

(事務局)

19年4月1日現在では576人の待機児童がいる。

(山崎委員)

保育園プラス幼稚園という機能についてはどうなっているのか。現在、どのような状況か。

(事務局)

認定こども園については、現在横浜では3園展開している。来年度新たに2園開園予定で

準備を進めている。

保育所の子どもが幼稚園の教育を受けるといった交流が進んでいる。

(山崎委員)

保育所の育児支援センター園というのは、保育所を利用する、働いている母親だけが利用できるのか。

(事務局)

育児支援センター園については、保育所に通っている子どもや保護者を対象にしているのではなく、保育所を地域開放して、保育所に通っていない子どもや地域の子育て中の母親を支援している。

【審議事項】

1 こどもの遊ぶ声をめぐる問題について

(鈴木委員)

保育園で楽器を使うときなどは、窓を閉めるといった心遣いは必要。

こちらが気にかけるほど苦情を言ってくるケースはない。比較的、理解がある地域なのかもしれない。

(米田委員)

東京の事例で、幼稚園が閉園になったとき、子どもの声なくなるのは、さみしいので、また子どもたちが集えるような施設になるのは大歓迎だという声が上がったことがある。そういう地域に住んでいる親子は、地域に受け入れられていると感じることができる。

逆の事例で、二人目の子どもがお腹いるのを見たマンションの下の階の人から「えっ!? もう1人生まれるの」と言われたという話がある。新しく生まれてくる命を否定的にとらえられると、その地域で子どもを育てていこうとは思えなくなる。

(伊達委員)

この問題をきっかけに、地域住民の子どもに対するとらえ方の育成を考えていけばよい。

住民自身がどう考えるべきなのかということも必要。責任者は誰だ、ということだけにとすると施策は貧困化していくし、日常生活から離れていってしまう。

(小松崎委員)

時間制限のもとに遊ぶとかの規制が必要な場もあると思うが、行政の配慮があれば、ある程度防げる問題かもしれない。

(山本委員)

使用時間を決めてもらえば、使いやすいと思う。子どもが生き生きと遊べるような場、親もストレスなく遊ばせられる場が欲しい。

マンションでの生活も注意が必要だが、住むところと公園のような公共の施設とはあり方が違うと思うので、分けて考えていかなければならないと思う。

(生川委員)

小学校のそばに住んでいる人が、自分の子どもが通っていた頃は、「今日は体育であんなことをしているのね」「もうすぐ運動会なのね」と楽しみにしていると言っていたが、子どもが卒業してしまうと「チャイムがうるさい」「運動会のアナウンスがうるさい」と言うようになってしまった。子育てが終わった途端、騒音に変わってしまった。

マンションでも「ピアノは八時まで」という規制があったり、「夜遅くステレオをかけている」という手紙が回覧されたりするが、近所の付き合い方の問題もあるのかもしれない。

(辻委員)

横浜市では、騒音については、当事者間や地域の配慮、話し合い等による解決を基本としているということなので安心した。「法律」や「条例」で解決すべきではない。

突然「うるさい!」と怒鳴る大人が多くなった。子どもから「すごく怖かった」という話も聞く。バスの中で赤ちゃんが泣いたら「うるさい」と怒鳴られたということも聞く。そういう思いをした人たちが安心できるよう、相談できる場所があるとよい。

	<p>(小唄委員) 東京と横浜市では条例の仕組みが違うので、裁判になっても同じ判断にはならないと思う。子どもの声を騒音と感じてしまうということもある、ということを知りながら、お互いに許しあえる人間関係をつくるのが、最大の予防策だろう。</p> <p>(加藤委員) 自分の身近に子どもがいない人は、子どもの出す音がうるさく感じるし、高齢者がいなければ、高齢者の出す音をうるさく感じる。子どもや高齢者と一緒に暮らさない世帯が増えたことも要因だろう。 地域の中で子どもから高齢者までが安心して暮らせて、話ができる状態になっていれば、おそらく苦情は出ない。</p> <p>(松原委員) 子どもが歓声をあげても大丈夫で、本当に集まってくるような場所を増やしていけるのか、騒音との折り合いをどうつけていくのかを考えるとよい。</p> <p>(山崎委員) 行政が深刻になることはない。例えば、普通の会話は音量の目安で 60 デシベルまでと言われても困る。ただし、配慮は必要。</p>
配布資料	<ol style="list-style-type: none"> (1) 委員名簿 (2) 事務局職員名簿 (3) 横浜市児童福祉審議会条例 (4) 横浜市児童福祉審議会運営要綱 (5) 里親部会審議報告 (6) 保育部会審議報告 (7) 児童部会審議報告 (8) 障害児部会審議報告 (9) 第 26 期横浜市児童福祉審議会障害児部会 中間報告 (10) 子ども虐待による死亡事例等の検証委員会設置について (11) 児童相談所一時保護所 外部評価委員会設置について (12) 地域子育て支援拠点設置の進捗状況について (13) 平成 20 年度こども青少年局予算概要 (14) 子どもの遊ぶ声をめぐる問題について <p>参考 1 「障害児と家族の生活状況調査」報告書 参考 2 平成 20 年度健康福祉局予算概要 (抜粋) 参考 3 平成 20 年度教育委員会予算概要</p>
特記事項	なし